

ゴツゴツした斜面

多くの然別溶岩ドームの斜面は、崖錐と呼ばれる岩屑で覆われています。この辺りの岩は大きくゴツゴツしており、その大きさはほぼ均一です。その大きさと分布から、この辺りの岩は土砂崩れによるものではなく、溶岩が冷却され、冷凍と解凍のサイクルを繰り返してきた結果によるものと分かります。

溶岩が冷却されると

溶岩が火山から流れ出ると、それは冷却され、凝固します。この工程は、地表付近では急激で、中心部ではゆっくりというように、流れの中でもさまざまな速度で生じます。冷却する溶岩は収縮し、凝固する岩には割れ目ができ、これにより徐々に崩壊が起きます。

凍り、解けて、再び凍る

水と氷は、繰り返される冷凍と解凍のサイクルを通して、土地を浸食していきます。水は岩の割れ目に侵入し、凍るにつれて体積が増していきます。これにより周辺の岩には膨大な圧力がかかり、その割れ目は開いていきます。この冷凍と解凍、膨張と収縮の繰り返しにより、岩は最終的に割れて破片となります。

最終氷河期

然別火山群は、最終氷河期（115,000-11,700 年前）の後半にあたる 6 万年から 1 万年前、非常に活発でした。年間平均温度は今日よりも約 10°C 低く、その環境は今日のシベリアに似ていたものと推測されます。北海道は雪と氷で覆われていて、その一部には氷河が繋がっていたものと考えられています。然別火山群のゴツゴツした斜面は、このもっと寒かった時代の面影が残ったものです。西ヌプカウシヌプリ（1,251 m）または東ヌプカウシヌプリ（1,252 m）でのハイキングや、西ヌプカウシヌプリの東側の麓にあるセンジョクズレでは、このような斜面の一部を望むことができます。